

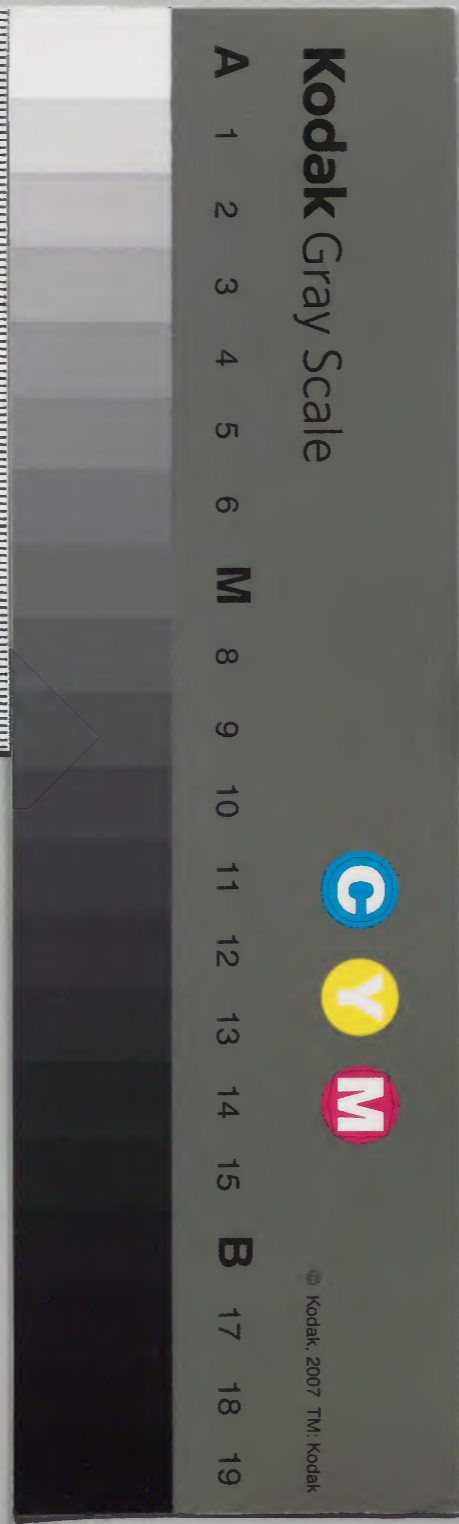
神輿圖識補

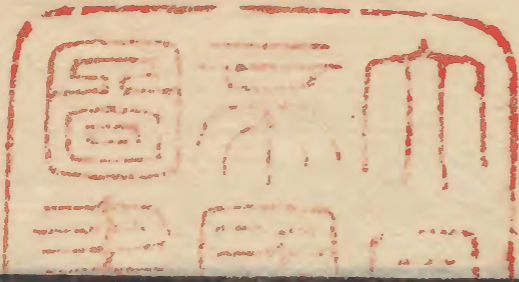
19

和書門類			
二八六一七號	八函	七册	架

內閣文庫		和書類
二八六一七號	七册	架
八函	九架	

內閣文庫	
番號	和 28617
冊數	7 (7)
函號	185 123





坤輿圖識補卷四

本編中所收



美作箕作寛省吾 選

明治十三年購求

亞歷山多兒^{ゴロウ} 卧盧的^{マセドニア} 漢譯云ハ馬則多尼亞侯曰ヒ

ハノ男ナリ、紀元前三百五十六年、ベルラ^{地ニ生ル}名ニ生ル、其

幼ナル寸、氣宇弘恢、幼弱ノ者ニ似ズ、ヒル^{嘗テ大}ハ嘗テ大

ニ敵ニ克ツ、帝之ヲ聽キ、其友ニ向テ泣テ曰ク、父王我

ニ功名ノ地ヲ遺サズ、是ヲ以テ泣ト云ヘリ、父王亞理

斯^ス多^ト傳^{下ニ其小}ヲ載^ス、フメ、之ガ傳タラシム、鞠育訓導、并ニ其

坤輿圖識補

卷四

一

東京叢書

兵艦ヲ毀タシメ、以テ其歸ル心ヲ斷ツ、乃チ進デハリ
 カルナシス名地ニ抵リテ、大ニ其府ヲ攻ム、敵兵驍勇、善
 ク拒グトイヘド、竟ニ之ヲ破ル、小亞細亞ノ諸侯皆帝
 ニ從フ、此時名王トリダテス名王モ、亦降ル、爾
 來、帝征討スルノ有ル毎ニ、必ズ從フ、帝「リーギー」ニ
 在リ、兵ヲ遣テ「セ」子名國ヲ取ル、後「ゴル」ヲ名地ニ赴
 キ、其地ノ歳星ノ像ヲ安置スル殿堂ニ詣リ、奇巧ナル
 結紐アルヲ視テ、自ラ劔ヲ拔テ之ヲ斫斷ス、繼デ「カバ
 ド」ニ「ラ」降シ、「タル」ニ抵ル、偶入浴シテ、熱病ヲ得
 タリ、病極テ危嶮ナリ、百兒西亞王、達柳氏之ヲ聞キ、侍

醫輩ニ金帛ヲ遺ル、是ヲ以テ、一人モ之ヲ治セシト言
 フ者ナシ、一醫生、其疾ヲ治スル藥ヲ劑セシト請フ、帝
 ノ親友、バルメニ「書ヲ帝ニ贈リ、ヒル」トス、達柳氏ガ
 賂ヲ受ケ、帝ヲ毒セシトスルヲ告ク、帝知ラザル為シ
 テ醫ヲ召シ、藥盞ヲ手ニシ、封皮ヲ折閱シタル、書ヲ覽
 セシメ、因テ其面ヲ睨テ、其藥ヲ服ス、此時ニ方テ「口ウ
 ヤアウ、ハ」ニ在リ、帝ノ動靜如何ヲ伺フ、病初テ
 愈ル寸、達柳氏兵ヲ發メ、帝ヲ伐ツ、帝之ヲ「イ」ス、河畔
 ニ迂ヘ戦テ大ニ之ヲ敗リ、金帛輜重ヲ得ルヲ算ナク、
 其親族ヲ生捨ス、帝之ヲ待ツ禮アリ、又達馬斯谷ヲ圍

ム百爾西亞王ノ寶庫ノ在ル所ナリ乃チ地中海ノ諸
 府ヲ按撫シ凱歌ヲ唱テハリスチテ發シ既日多ヲ
 取ル初メ既日多久ク百爾西亞ノ虐政ニ困ムヲ以テ
 乃チ其殘暴ヲ除キ善政ヲ行フ又其民心ヲ得ント欲
 シ其故禮法教ヲ復ス遂ニアレキサンドリ地名ニ到
 リ初テ帝都ノ基礎ヲ建ツ此レヨリ以來此地巍然ト
 メ古帝都ノ一トナルト云帝又其地ヨリ發シレイビ
 イノ沙漠ヲ過ク此行ハ嘗テレビトルアムモレ星
ノ神ヲ宣ヲ証セントスルナリ或ハ曰ク歲星自ラ
 帝ヲ以テ己ガ子ナリト宣ス或ハ曰ク甲說ハ皆妄ナ

リ帝已數達柳氏ガ兵ヲ破リ春ニ至テ又兵ヲ發テ
 百爾西亞ヲ伐チ其騎將ヲ襲フ騎兵敗走ス達柳氏モ
 亦殆ト危シ馬駿ニメ僅ニ免ルトヲ得タリ其陣營
 器械及ビ無數ノ寶貨ヲ得タリ是ニ於テ亞細亞寬按
ニ印度以西盡ク帝ノ版圖ニ入ル罷鼻落今サ門ヲ開
 テ逐ヘ降ル今サハ其國極テ富殖悉ク東方ノ金貨ヲ
 阜積スト稱ス遂ニ兵ヲ進メテ百爾西亞本都ベルセ
 ポリスニ入ル
 帝已ニ洪業ヲ建テ版圖極テ廣大宇内無比ト稱ス是
 ニ於テ志盈チ氣傲リ數怒テ勇將ヲ誅戮スベルセボ

リス府ハ殷富壯麗、天下ノ奇觀タリ、帝一日大ニ酔テ之ヲ焚ク、醒テ後大ニ悔悟シ、速ニ兵ヲ起メ又達柳氏ヲ追フ、バクトリア^バノ將^ベス^ス、達柳氏ヲ捕テ之ヲ殺ス、帝達柳氏ガ屍車上ニ横ハリ、創痕身ニ滿ルヲ見テ、涙ヲ垂レテ、懇ニ之ヲ弔シ、百爾西亞ノ葬儀ヲ用テ、厚ク之ヲ葬ル、次デ「ヒルカニ」^上「マルセンラン」^上「バクトリア」^上ヲ降シ、遂ニ立テ、亞細亞王ト為ル、帝素ト規模宏大、識量廣遠、大ニ四方ヲ經營セント欲シ、其冬駕ヲ亞細亞ノ北部ニ進メ、北高海ニ抵^ル、厄勒祭亞人、當時未ダ履歷セザル地ナリ、帝名ヲ好ミ、地ヲ拓ク心是

ニ至テ尚未ダ艾マラス、スセイテン^{名國ハ蠻夷禮義ヲ}知ラザル邦ナレドモ、又之ヲ征討メ、其君ヲ朝セシム、已ニメ駕ヲバクトリア^バニ返シ、明年又近國ノ未ダ服セザル者ヲ征シ、ソグ^グア^アナ^ナ全國ヲ從ヘ、ヲキシイアルテス^{名人カ}一族ノ帝ニ抗拒スル者ヲ捕獲シ、又其女^口キサ子ヲ娶ル、一妍好女子ナリ、是ニ於テ其父帝ニ服事ス、帝已ニ四國ヲ臣服シ、人民泰平ノ化ヲ戴ク、是ニ於テ駕ヲ發メ、印度ニ幸ス、即千應^イ多^シ江^スヲ濟リ、國侯^ク夕^シピ^ヒトス^名ト和ヲ約ス、既ニメ^ヘイ^ダス^ペス^河ヲ濟ル、^ボト

人ノ名之ヲ中流ニ要撃セントス、帝迎ヘ戦テ之ヲ破ル、
 ホトス乞テ曰ク、若シ降ラバ何ヲ以テ我ヲ處セン、帝
 曰ク、封メ玉ト為サン、ホトス乃チ臣ヲ稱ス、帝其國ヲ
 返シ與ル外、諸地ヲ増封シ、「ラントホーグト」ノ爵號ヲ
 賜フ、已ニメ駕ヲ進メ、安義江ヲ濟リテ、東セントスレ
 氏、群從皆怨ムルヲ以テ、已ムコヲ得ズメ、駕ヲ回シ、數
 道ニメ危難ニ遇フト云、「イダスペス江ニ抵ル軍艘
 ヲ集メ、其鹵簿ノ一半ヲ分テ、自ラ隨ヘ、船ニ乗メ、江ヲ
 下リ、其一半ハ、江ノ兩岨ニ循ヒ行カシム、已ニ江ヲ下
 リ、又應多江ニ航メ、大海ニ達ス、馬則多泥亞人未ダ大

海ヲ見ス、驚テ以テ壯觀トナセリ、嗣デ軍艘ヲ百爾西
 亞海灣ニ進メ、水路ヲ舍キ、旱道ヲ歷テ罷鼻落ニ返ル、
 途亞拉比亞ノ沙漠ヲ經、軍士食匱ク水ナキヲ以テ、歿
 亡相望ム、軍士帝ニ從テ百爾西亞ニ歸ル者、僅ニ四分
 ノ一ナリト云、帝「サニ在テ、達柳氏ノ長女」ス夕チラ
 卜婚ス、典儀極テ盛大、古今ノ未ダ聞カザル所タリ、既
 ニメ、罷鼻落城ニ行キ、更ニ後來メ、大志ヲ成サント圖
 ル、適病ム、二三日、大ニ酒ヲ被ムリ暴ニ崩ス、壽三十
 二歳時ニ帝嗣未ダ定ラス、諸將爭議一二日、遂ニ皇弟
 アリテスヲ立テ、位ヲ嗣シム、ヘルカスハ、尪弱大政

ニ任スルニ堪ヘザルヲ以テ一位政官ト為ス帝ノ屍
 ハ布多祿某氏之ヲ金棺ニ殮メアレキサンドリアノ
 某寺内ニ葬ル
 亞理斯多得列氏即明譯亞理多是ナリ
 亞理斯多得列氏按ニ蓋シスタキラハ
 斯多ト云ヘル義ナリ是ヲ以テ他ノ亞理斯多ハ古今
 ノ姓ノ人ニ分ツ必シモ人名ニ非ザルベシ
 ニ傑出シタル多智ノ人ナリ今其一ニ履歴ヲ撮テ
 左ニ開スト云亞理斯多ハ紀元前三百八十四年ニ生
 ル歳十七アレテ子ニ到リ布刺多ニ從テ術藝ヲ學ズ性
 精敏學ヲ勉メ業大ニ進ム布刺多曰ク亞理斯多ハ猶

學校ノ精神ノ如シ布刺多已ニ没メ後其友「ルミ」
 云者「イシ」部内「アルカル子」ノ地ニ在リ亞理
 斯多之ニ其地ニ就キ終ニ其妹ヲ娶ル後聘セラレテ
 歷山王ノ師傅ト為ル歷山王曾テ曰ク我レ師傅ヲ愛
 スル一父王ニ超テ然レバ後ニ及テ寵待衰フ亞理
 斯多既ニ幼主ヲ撫育メ大ニ其力ヲ竭セリ數歳後
 又アレテ子ニ返リ「イセ」ニ學校ヲ創メ「ベリ」
 子セン學派ノ開祖ト為ル「ベリ」ニ學校ヲ創メ「ベリ」
 ノ「イセ」ノ庭園中ニ在テ道遙散歩ノ歴山王崩
 後敵國ヨリ僧ヲ遣シテ亞理斯多ヲ讒聞ス亞理斯多

一部ノ兵ヲ啖メ、亂ヲ興サシメ、因テ帝ヲ要メ、レ「レデント」幼主ヲ輔ト為リ、其幼冲ナル間、擅ニ朝ニ臨ミ、制ヲ稱ス、帝年甫テ十五歳、隱然トメ、邦家ヲ嚴備スル心アリ、乃チ陣法ニ從事シ、兵卒ヲ練リ、患難ニ處メ、少モ其志ヲ撓マサズ、レ「レト」レツ部ヲ討テ、危難ニ逢ヒ、身ヲ殉セントスルノ數ニ入、遂ニ之ヲ降シ、收テ己ガ兵トナス、其兵皆勇偉、遇フ者辟易セザルノナリ、越テ三年、帝歳十八、英明衆ニ超ユ、早ク「レ」ガ陰ニ黨ヲ結ビ、不軌ヲ圖ル心アルヲ察シ、收テ之ヲ一寺ニ幽ス、其初「レ」ヒア帝ノ傳統ノ次ニ非ズメ、位ヲ嗣クヲ以

テ帝ヲ廢セントスル心アリ、乃チ「レ」ヲ立テ、帝ト為ス、是ニ於テ一國兩帝アリ、是ニ至テ「レ」ヲメ、位ヲ避シメ、初テ俄羅斯全州ヲ領スルヲ得タリ、乃チ倍心ヲ專ニメ、海軍ヲ備ヘントス、初メ俄羅斯ノ寶庫ニ、英吉利ノ故船一隻ヲ藏ス、蓋シ先帝ノ珍異ナリトメ、貯ヘシ所タリ、帝一日、寶庫ヲ閱シ、其船ヲ觀テ感賞シ、遂ニ海軍ヲ備ル志ヲ立ツ、云、然レモ俄羅斯ノ地形、止外一方海ナルヲ以テ、其船ノ佳惡ヲ知ル者ナシ、且ツ此州、從來一隻船ヲモ、造修シ出スノ能ハサレバ、帝ト共ニ此秘器ヲ視シ者、皆呆然トメ、望ヲ絶テ、敢

テ其航海ノ一精品タルヲ仰ク者ナシ、然ルニ帝天資
 穎異絶特、己カ鬱スル所ヲ、覈知セントスル心深ク、獨
 リ私ニ惟ラク海舶ヲ備フル寸ハ、山嶽ニ登リ、川澤ヲ
 渉ルヲ俟ズ、直ニ積水ヲ横絶メ、學術隆盛、治教休明ノ
 諸國ト聲息ヲ通シテ、斯民ヲ裨益スベシト云ヒ、乃チ
 船隻ヲ造修シ、英吉利船ヲ本國ニ來ス方略ヲ施ス、此
 時邦内、尚未ダ一隻ハ、フレガト艦ヲ備ヘザルニ、先ヅ
 一員大將ヲ撰テ、アドミラル都督ニ任ス、初メ先帝
 アレキセイ、和蘭船匠ヲ召テ、一艦ヲ造シメ、北高海ニ
 泛テ、百爾西亞ト、交易セントス、船成ル、名ケテ、アーデ

ラール靈鷲ト云、航メ、亞斯答臘ラカニ到ラントス、同河ノ
 哈薩克コサクノ人種攻テ之ヲ燬久、士卒敗レ走ル、獨リ和蘭人
 二名アリ、莫斯科窪ニ走リ返ル、其一人ハ「ゴンスター
 ペル」官名、船上ノ「カルステン」打礮手ヲ云「ブランドナリ、是ニ至テ、
 帝又擢テ、一位造艦大匠ト為シ、大ニ舟楫ヲ造修ス、一
 千六百九十三年、ブランドヲメ、自ラ造リタル軍艦ニ
 駕メ、アルカンドルニ到リ、本州軍人ノ須フル哆羅羈
 ヲ貿易セシム、

帝又國內ノ民庶鄙野無術、逸情性ヲ成セル陋俗ヲ一
 洗セントシ、乃チ僅ニ數年ニメ、數百年來、汙染ノ惡習夷

風ヲ丕變スルニ至レリ、初メ帝謂ラク俄羅斯ハ、歐邏
 巴洲内ニ在リトイヘ、凡餘國ノ如ク諸科ノ學術未ダ
 盛ニ興ラズ、宜ク大ニ他國ノ學者ヲ招キ、其道ヲ講明
 スベシ、乃チ多ク天下ノ碩儒、名士ヲ會集ス、裡ニ就テ
 赫勿婁亞内、ゼ子^ハノ人、列福耳多ト云ヘル大賢、其
 徵ニ應ス、其人齡尚弱冠、帝ト交ヲ訂テ友ト為リ、常ニ
 帷幙ニ參メ、帝ヲ輔弼シ、大業ヲ贊成セリ、其初政ニ、先
 ズ當時本州ノ兵制ヲ變メ、歐邏巴風ト為ス、初メ佛蘭
 西^ハゲノ^ハテ^ハン人種亂ヲ為ス、ナ^ハンテス府、佛蘭西、^ハコ
 ニ^ハアノ政官一禁令ヲ出ス、其人種肯テ從ハズ、遂ニ逃
 リ、

テ俄羅斯ニ來ル者數百千人、是ニ至テ、皆之ヲ軍伍ニ
 編入シ、三萬人ヲ得タリ、列福耳多^ハゴ^ハルド^ハン、二人ヲメ、
 之ヲ統帥セシメ、陣法ヲ操練ス、幾ナラズメ、部伍嚴整
 進退法アリ、皆用フベシ、

帝曾テ謂ラク、土俗ヲ丕變シ、文化ヲ開クハ、交易ヲ四
 方ニ通スルヨリ、善キハナシ、窩々^ハ所^ハ德海、黑海ハ、俄羅
 斯大河ノ通スル所ナレバ、舟楫ヲ此ニ通スルヲ便宜
 ナリトス、後都爾^ハ其^ハト戰ニ及テ、帝自ラ同河ニ到リ、^ハア
 ソフヲ取テ、貿易諸物人、放地ト為シ、以テ黑海ノ互市
 ニ便セント欲ス、乃チ兵ヲ率テ^ハアソフ城ヲ圍ム、城堅

固ニメ、未ダ抜フ能ハズ、急ニ兵ヲ收テ、莫斯科窪ニ歸
 リ、其兄「イワン」ガ疾ヲ省ミテ永訣ス、此時俄羅斯飢歉
 ス、「リガダン」チクニ地ノ粟ヲ糶シ、之ヲ本州人、賈舶ニ
 テ海運シ、國中ノ餓莩ヲ救濟ス、又和蘭ホ、ステンレ
 イキ、フランデシブルク、以上ヨリ、築城ノ學ニ熟シ、大
 煩ヲ點放スルニ慣フ人材ヲ援キ、軍卒ヲ訓練ス、是ニ
 於テ、軍備倍整フ、一千六百九十六年、新ニ同河ノ側ニ、
 造船場ヲ置キ、一隊二十三隻入、ガレイエ艦ヲ備ヘ、
 二檣ヲ立、及ビ「ガイルラスセ」一種ノ船、二艘、燒舸四隻ヲ
 造リ出セリ、乃チ此水軍ヲ率テ、都爾其ト、アソフニ戰

テ之ヲ敗リ、此年六月、アソフ城ヲ取ル、此城ハ黑海ノ
 鎖鑰タルヲ以テ、此地ヲ堅固ニ、ナサント欲シ、軍艦五
 十五隻ヲ造リ、築城學家「ラーケル」ニ命メ、佛兒格河
 ト、同河ノ交會ニ、大渠ヲ鑿タシメ、且壯年ノ貴官數員
 ヲ、和蘭意太里亞ニ遣テ、造船ノ法ヲ講習セシメ、又貴
 官輩ヲ、黃祁ニ遣テ、兵事ヲ學ハシム、
 一千六百九十七年、ストレルツノ兵、及ビ大臣數輩、亂
 ラ作シ、帝ヲ弑セント謀ル、帝又其亂ヲ平ダ、爾後外國
 ニ、遊歴セント欲シ、「プリン」名爵「ロマノ」トウスキ、及
 ビ「ボヤール」シ、俄羅斯ノ官名、猶諸侯ノ如三員ニ朝政

申與圖説補 卷四 十三 夢窓抄

ノ帝ト交ル者其材器ヲ賞セザルハナシヲキスホル
トノ大學校ヨリ特命褒書ヲ與ス居ル三月ニメ英
吉利ヲ去リ和蘭ヲ過ギデレステンヲ經テ子ニ
赴キ意太利亞ニ到ラント欲ス然ルニストレム
ノ兵又亂ヲ作シ帝ヲ廢セント謀ル故ヲ以テ一千六
百九十八年九月帝急ニ莫斯科窪ニ返ル此時アルド
上ニ見ユ巳ニ其亂ヲ平グ然レバ帝ノ怒猶未夕霽レズ
反賊ヲ收テ盡ク慘刑ニ處セントシ十月ニ迄テ日ニ
罪人ヲ刑戮ス血浪之ガ為ニ平地ニ泛濫ス帝反賊ノ
巨魁ハ女兄ソヒアナラント疑ヒ嚮ニ徙シタル寺前

ニ縊臺ヲ建テ一百三十人ヲ縊死ス内三人ハソヒア
ヲ勸テ反セシメント欲シ一書ヲ修メテ深閨ノ窻ヨ
リソヒアガ手ニ交セシ罪ヲ以テ亦此刑ニ處ス其餘
五百人ハ放流スストレムツ隊兵ヲ緝捕メ盡ク屠戮
シ一千七百五年其餘兵ヲ亞斯太臘干ニ流シ新ニ二
十七列細絛屯ノ歩兵二列細綿屯ノダラゴンデル事
ニ應メ或ハ歩シ或ヲ設ク兩隊合メ三萬三千餘人擦
ハ騎スル輕兵ヲ云練スル三月皆善ク練熟メ進退規矩ニ中ル帝妃エ
ウドキシア閨房ヲ奉ルヲ惡ム帝因テ其反賊ニ黨ス
ルヲ疑ヒ空スダル地ノ寺ニ徙シ其名ヲ易テヘレナ

ト云ヒ帝妃ノ位ヲ奪ヒ、庶人ノ衣ヲ服セシム、
此騷亂ノ際帝ノ二友、列福耳多、ゴルドンモ亦死ス、
ンシコフト云者アリ、元ト卑賤ナレドモ、才智衆ニ超
ヘ、カヲ王事ニ竭スヲ以テ、帝大ニ之ヲ擢用シ、恩寵優
渥ナリ、帝已ニ數、反亂ノ變ニ遇ヒ、自ラ謂ラク、國ヲ治
メ民ヲ安ズルハ尤急務ナリトシ、精ヲ勵シ治ヲ圖ル
心愈切ナリ、是ニ於テ國中ノ貢稅ヲ減シ、ボヤール
ノ鹵簿ノ數ヲ省カシメ、又國益ヲ開クガ為ニ、外藩ニ
出游シ、聚珍版ヲ創メ有用ノ書ヲ購求シ、國中ノ大府
ゴトニ、學校ヲ建テ、新ニ寺觀ノ律令ヲ定メ、歐邏巴諸

州ヨリ兵學ニ精通シ、諸術藝ヲ叡明スル人、及ビ諸工
匠ヲ招キ邀ヘ、國中ノ土民ヲ召テ、告テ曰ク、汝等ヲメ、
皆其處ヲ得テ富殖ナラシメ、土地ヲ衛護メ、爭亂ノ患
ナカラシメント約シ、竟ニ其言ヲ踐テ、金坑ヲ開キ、家
畜ヲ蕃殖シ、耕耘ヲ勸メ、輿地築城ニ科學者ヲ、四方ニ
遣テ、封内諸州ノ地圖ヲ作ラシメ、兵器ヲ造ル鍛冶場、
諸器什造廠ヲ設ク、已ニメオ、ステンレイキト兵ヲ
構フ、カル口多ツニ盟フ後、兩國兵ヲ釋ク、一千七百年、
帝又和睦ノ期ヲ延テ、三十年ト為サント約ス、然ルニ
雪際亞王加列兒十二世、兵ニ將トメ、俄羅斯ヲ伐以、波

羅尼亞人子ルヲ迎ヘ戰テ敗ラル然レ帝恐怖
色ナク英氣已ニ雪際亞ヲ吞ム帝嘗テ曰ク雪際亞終
ニ必ズ戰克ツ所以ノ陣法ヲ我ニ訓フベシト此レヨ
リ以來戰敗ルゴトニ大捷ニ近クテ已ニ一歩ナリ
ト云ヒ益濟勵メ此レニ克ツベキ方略ヲ設ク已ニメ
帝加列兒ガ波羅尼亞ニ在ルヲ伺ヒ虛ニ乘メインゲ
ルマンランドクールランド及ビリフランドノ一
部ヲ取り一千七百年ユルタワノ地ニテ加列兒ガ
兵ヲ殲ス哈薩克ノ酋マスギバ初メ加列兒ニ屬シ已
ニメ又俄羅斯ニ從フ帝善ク駕馭ス是ヲ以テ其帝ニ

事ルテ加列兒ヨリモ謹メリ乃チ其兵ヲ部伍ニ編入
シ俄羅斯ノ兵倍驍勇一為ル遂ニ兵ヲ發メ急ニ雪際
亞ヲ襲ヒ一千七百年更ニリフランドノ餘部ヲ
ユルグケロルムヲ取ル

加列兒十二世ハ俄羅斯ノ敵シ難キヲ察シ援ヲ都爾
其ニ請フ都爾其兵ヲ進テ俄羅斯ヲ伐ツ其兵俄羅斯
ヨリ多キテ四倍一戰ニ俄羅斯ヲ鏖殺セニトスル勢
アリ此時俄羅斯ノ兵糧未ダ備ラズ然トモ帝フガト
河ヲ濟リ都爾其ノ大ヲシール甲冑兵隊ノ名大ヲ
フガトニ近ヘ戰フ全軍重圍ニ陥リ出ルヲ能ハズ繼

妃加太理那一世都兒其人、大牙シリルニ和ヲ納ル、
千七百十一年和盟成ル、乃チ圍ヲ解キテ、帝生還ル、
ヲ得タリ、是ニ於テ、嘗テ取ル所ノ「アソフ」及「ビ、黑海諸
城ヲ都爾其二返シ納ル、帝已ニ都爾其ト和シ、力ヲ專
ニメ雪際亞ヲ攻メ、肥良的亞全國ヲ取り、數々雪際亞
ノ兵ヲ破ル、一千七百二十一年、雪際亞力屈シ、和ヲ乞
フ、終ニ子イスマテルニ盟フ、是ニ於テ、「インゲルマン
ランド」、「エストランド」、「リフランド」及「ビギル
レン」、「ケロルムスレン」ノ一部ヲ取テ、永ク俄羅斯ノ版
圖ニ歸ス、初メ帝加列兒十二世ト戰フ毎ニ、二人皆士

卒ト俱ニ、單身戰陣ノ中ニ進ミ、其衣銃丸ニ中リテ、穿
破スル者數處、一日、加列兒戰破レテ獨リ逃ク、日已ニ
黄昏ナリ、帝雪際亞ノゼ子ラールル大將ヲ見テ謝メ曰ク、
汝王ノ訓ヲ得テ、戰勝ヲ習フヲ得タリ、北邊ノ兵旣
結テ解ケザル、二十一年、是ニ至テ、其亂初テ定ル、帝
兵ヲ出ス、此ノ如ク久シクメ、國財匱乏スルヲ告ゲズ、
國勢愈々昌盛セリト云、

帝已ニ雪際亞ニ戡ツ、是ニ於テ、天ヲ祀リ、大ニ天下ニ
赦ス、惟人ヲ殺セル者、盜賊ノ自ラ過ヲ悛ルヲ知ラ
サル者ハ、此例ニアラズ、且一千七百十七年ニ、至ルマ

テ、晉ミタル爵位ヲ天ニ告グ、政官諸宗僧皆闔國人民
ノ望ニ副テ、尊號ヲ上リ、父國西人本國ヲ稱メ、父國ト云、稱ノ慈父俄
羅斯皇帝ト云ヒ、副號ヲ上リテ、臥盧的ト云、一千七百
二十一年、十月廿二日、太平ノ祭ヲ行ヒ、帝國ノ位爵ヲ
天下ニ布告ス、ナウイセシ和蘭、雪際亞、先ツ其命ヲ允シ、餘
國モ亦續テ、尊號ヲ稱スルヲ准ス、帝既ニ闔國ノ民俗
ヲ移シ、正化ニ丕變セシメ、大ニ其國ヲ隆興ス、因テ謂
ラク、斯國ヲ舉テ、開劣不學ナル、レケンテンレノレ輔弼ノ手
ニ委スルニ忍ビスト、一千七百二十二年二月廿二日、
帝嗣ヲ立ル律ヲ定テ曰ク、皇帝ノ擇ビ立タル君、空ク

北興國誌

卷四

神皇正統記

國政ヲ行フベシト、乃チ群臣ヲメ盟ハシム、
初メ帝久ク、兵ヲ百爾西亞ニ進メント欲ス、是ニ至テ
遂ニ百爾西亞ヲ征シ、交易ヲ北高海ニ通セントス、一
千七百二十三年九月廿三日、兩國和ヲ講シ、デルベン
ト、トシテノ二府、シラシ、マサン、デラシ、アスタラ、ゴト等
ノ州ヲ俄羅斯ニ割與ス、既ニ百爾西亞ヨリ凱旋シ、官
員ノ邪曲ナル者ヲ嚴鞠メ、慘刑ニ處ス、トセ、カニセリ
ル、レ第一、レ椅ニ坐メ、名ハシカフスト口ウハ、初メ死罪
ニ處セントシ、既ニ刑場ニ臨テ、遽ニ宥シテ、邊裔ニ流
竄ス、レメンシユフハ、二十萬ル一ブルヲ、國庫ニ納レテ

神皇正統記

卷四

八

神皇正統記

命ヲ贖ヒ、身ヲ戕ス刑此方ニテ、劓刑ニ處ス其餘、刑ニ等ノ刑ノ類處スル差アリ、一千七百二十四年、又兵ヲ雪際亞ニ耀シ、雪際亞弟那瑪爾加ヲ威懾シテ、ホルステインシ赫督撫ノ為ニ、和議ヲ講シ、遂ニ弟那瑪爾加王ヲ又歲銀二萬五千ダール銀貨ヲ納レシム、且雪際亞ノ嗣ヲ定ム、此時、ホルステイン赫督撫巴ニメ、船ニ駕メ、コロンブス多トニ返リ、新造船隻ノ落成ヲ賀シ、祭祀ヲ設ク、其船隻ハ、四十一艘、大礮二千一百六十六門、船卒一萬四千九百五十名ナリ、其後、新都伯德球城ニ、幾多ノ便宜ヲ備ヘ、要害ヲ構ヘ、又新ニ雪際亞ト、交易ノ制度

ヲ約シ、一千七百二十四年五月、妃加太里那カカタリナノ功ヲ賞メ、女帝ノ位ニ即カシメ、十一月鍾愛女子、アンナナヲ、ホルステイン赫督撫ニ嫁ス、

己ニノ帝局發ノ疾アリ、精力稍減スルヲ覺フ、一千七百二十四年晚秋、セイステルグキニ幸シ、鍛冶及ビ鑄銃廠ヲ查視ス、日已ニ暮ル、ラクク地ニ及デ、士卒數十名、小舸ニ乗メ、河ヲ渉ル、風駛ク波高ク、岸ニ上ルヲ能ハズ、舟將ニ覆没セントスルヲ見テ、帝自ラ躍テ、水ニ入り、士卒二十餘名ヲ拯ヒ出シ、因テ又寒疾ニ感ジテ、宿痾倍劇シ、一千七百二十五年尚疾ヲ忍テ、新禧ノ祭

祀ヲ行フ古制ノ如シ、二月八日、病大漸トナル、女帝湯
藥ニ侍シ、帝ヲメ「メンシコ」ガ罪ヲ宥シ、其官ヲ復セ
シム、竟ニ崩ズ、壽五十三、加太里那一世、帝位ヲ襲フ、初
メ帝太子アレキセイ、ペト口ウツヨ生ム、狼戾恣睢、其
人ト為リ、大統ヲ承ルニ足ラズ、又帝ノ知ラザルニ乘
リ、其國ヲ出奔ス、カツプル、ホフ、メーストル、第一位メン
シウフ、太子ヲ帝ニ譖ス、帝之ヲ捕ヘ、鞠問スル、極テ
嚴酷、竟ニ帝ノ前ニテ、其頭ヲ斷ツ、或ハ曰ク、帝手自ラ
之ヲ誅ス、

那波列翁

那波列翁、姓ハ勃那把爾的、又蒲阿那把爾的ニ作ル、實ニ一千七百
六十八年、第二月五日ヲ以テ、哥爾西加島内、アヤシヲ
ニ生ル、頃之ニメ、佛蘭西「アヤシ」ヲ取ル、那波列翁有
生ノ初ヨリ、佛蘭西版圖内ノ人タリト稱シ、以テ國人
ヲ懷ント欲シ、自ラ一千七百六十九年、八月五日ニ生
ルト云フ、此一事既ニ、其天資桀驁、詐力ヲ以テ多智ノ
佛蘭西人ヲ駕馭シ、大ニ土宇ヲ開拓スル雄略ヲ概見
スルニ足レリ、父ハカル口ボナバルテ、又カルバカ
ト云、哥爾西加ノ貴胄ナリ、カルヂナール、僧官ノ貴キ
名ガ、女兄弟アリ、ア、ラ、チ、ア、ラ、モリニガ、美麗

ナルヲ聞テ之ヲ聘シ、五男三女ヲ生ム、那波列翁ハ其
 二子ナリ、小字ヲ「ナポリ」ヲ子ト名ク、幼ニメ沈毅寡黙、
 哥爾西加浮躁ノ風ヲ喜ハズ、甫テ八九歳一本ニ、一千
 年一作ル、然ラハ、其哥爾西加ノ嘉樂撫ラハ、鎮臺ヲルベウ
 年十一歳ナルベシ、佛蘭西ノ王國武校ニ遊バシム、
 初メ「ソルベウ」コ、哥爾西加ノ「ソウフルニウルゼ子」ラ
 一ル知縣、太タル寸、守ノ類「チ」ガ嘉脱ヲ蒙ル、是ヲ以テ、
 其二子ヲ遇スル、殊ニ渥シト云フ、那波列翁既ニ武
 校ニ入り、諸生ト共ニ遊嬉スル、ナク恒ニ思フ度學
 古史ニ覃フシ、心竊ニ古ノ英雄ヲ慕ヒ、喜テ兵事ヲ談

三、遂ニ大ニ兵學ニ耽ル、此時佛蘭西ノ人、兵ヲ講ジ、武
 ヲ好ム者アラズ、那波列翁ガ行、獨リ嶄然トメ、頭角ヲ
 見ル、嘗テ諸生ト、隊ヲ分テ戰ヲ演ス、那波列翁歳未ダ
 弱冠ナラザレド、善ク奇策ヲ畫シ、部署ヲ嚴ニシ、數々
 寡ヲ以テ衆ニ克ク、以一千七百八十四年、オヒシ一ル長
 三擢ラル、武臣多ク、其軍事ニ長ズルヲ見テ、深ク愛敬
 ス、既ニメ「ブリイン」子ヲ去リ、巴里斯ノ兵校ニ入り、留
 學スル、若千年、歳十七、其兵校ヲ辭シ、煩隊第二級口
 イテナント、位、甲必丹テ號令ヲ傳フル官、隊長中ノ重キ者ナリ、
 三拜セラル、此時佛蘭西ノ兵亂、初テ起ル、而メ那波列

將ヲニ累遷ス、此時意太里亞ヲ攻ル兵節制整ハズ、數々敗衄ス、故ヲ以テ、那波列翁ニ命ズ之ヲ救ハシム、是ニ於テ、那波列翁初テ大ニ其韜略ヲ試ムルコトヲ得タリ、已ニメ進仕ノ途忽チ窮シ、口ベスビル^人名ガ罪ニ累坐ス、初ノ口ベスビル^人政ヲ為ス慘虐、義團會議メ、令ヲ諸州及ヒ義團ノ陣ニ下シ、テルロリス^{殘虐}テシ、當時口ベスビル^レガ兵殘虐ヲ捨テ、其兵器ヲ收メシム、此時ニ方テ、那波列翁^名地ニ在リ、亦緝捕セラレ、頃アリテ、又赦サル、然レモ罪ニ坐シ、意太里亞陣ハ、テリガ^テ子^テラ^ル此ノ職ヲ褫テ、急ニ巴里斯ニ赴キ、

己カ寛ヲ伸ント欲ス、然レモ其陳スル所竟ニ聽レズ、是ニ於テ落魄孤立、救援スル人ナシ、乃チ佛蘭西ヲ去リ、都爾其二赴キ、顯榮ヲ求ント欲ス、亦其准ヲ得ズ、既ニメ新ニ和蘭軍ノ煩軍指揮ト為リ、旅装ヲ結束ス、適巴里斯ノ僧徒亂ヲ作シテ、義團ニ逆フ、バルラス之ヲ防ク、那波列翁バルラスガ部將ト為リ、一軍ヲ統領メ、之ヲ伐ツ、一千七百九十五年、佛蘭西王黨兵ヲ發メ、其和郷黨ヲ伐ニ及テ、十月五日、義團那波列翁ガ前功ヲ録シ、テ^テ子^テラ^ル此ノ^モ亦軍隊ノ名見ニ拜ス、居ル下三月、一千七百九十六年、バルラス又

那波列翁ヲチレクトイレ義團ノニ薦ム、乃チ擢テ、
又意太里亞軍人、カアルベ至ル、大將軍ニ任
ズ、ハルノイスガ、孀婦ト素
ヨリ相親善セリ、是ニ至テ、媒妁シテ、那波列翁ニ再醮
セシム、婦人家本ヨリ富メリ、是ヲ以テ那波列翁、其富
ニ據ルヲ得タリ、
那波列翁既ニ命ヲ奉テ、意太里亞ニ赴ク、此時義團ノ
兵羸弱、兵仗備ラズ、窩々所德禮畿ハ、其兵六萬人、
ウリトシ、之ヲ統帥ス、那波列翁ハ固ヨリ、軍事ニ諳鍊
スルヲ以テ、勅敵ヲ破ル策略ヲ定メ、四月十二日、之ヲ

カイトテ、破リ、翌日又之ヲ、ハルレシモ、
敗ル、窩々所德禮畿、比蒙突ノ兵、分隔シテ送ニ、聲息ヲ
通スルヲ能ハズ、那波列翁、終ニ本隊ノ兵ヲ引率テ、直
ニ敵陣ヲ衝ク、敵兵敗レ走ル、二十二日ノ晚、兵ヲ
ド、イニ進メテ、之ヲ取ル、一千七百九十七年四月十
八日、レヲベシノ義團ト、大ニ戦テ、之ヲ敗ル、敵兵和ヲ
請フ、遂ニカムボホルミノ地ニ會シテ、條約ヲ定ム、
是レヨリ先キ、那波列翁、勿搦祭亞ヲ略シ、古來ノ州縣
ヲ破滅セリ、今是ヲ窩々所德禮畿ニ割與テ、窩々所德
禮畿ハ、其所屬ノ涅埜爾蘭甸ヲ餽テ、以テ之ニ答テ、其

後政官又那波列翁ヲ、經略軍務大將軍ト為シ、英吉利
 大兵久阨日多、在在者ヲ劫略セシム、一千七百九十
 八年五月十九日、急ニ兵艦ヲ會聚シ、精兵三萬ヲ帥テ、
 「ウロ」ヨリ發シ、途ニ「マ」馬兒太島ヲ降シ、「アレキ」サ
 「ド」リトニ到リ、艦ヲ舍テ、陸路ヨリ急ニ攻テ其府ヲ
 取り、進デ該カ祿城ニ克シ、八月初一日、英吉利「フ」ロ
 「ト」ホク下、將船子ルソシ、西史外傳ニ其アレキサンド
 「ト」ニ來リ迫リ、「ウ」ロシノ船隻ヲ「アレキ」ル洋面ニ
 討ツ、人舟幾ト殲ク、逃テ馬爾太島ニ返ル者、僅ニ二隻、
 是ヲ勃那把爾的氏初次ノ敗績トス、九月「ポ」ルテ即チ
都爾

其戰書ヲ遺ル、那波列翁ハ、英吉利ニ、歐邏巴ノ歸路ヲ
 斷タレ、前ニハ都爾其ノ兵アリテ、腹背敵ヲ受ルヲモ
 患トセズ、兵ヲ進テ、阨日多ヲ討ツ、然ドモ全勝ヲ收ム
 ルト能ハズ、其將「サイ」キハ、都爾其ノ將「ド」ベ
 「イ」ガ陣ヲセド、名地ニ討ツ、十月二十一日、該祿城中
 ニ反者アリ、那波列翁兵ヲ旋メ、其亂ヲ平ク、繼テ止里
 ノ地ニ動亂起ルヲ以テ、其冬十二月二十二日、自ラ一
 萬二千ノ兵ヲ引テ、其地ニ赴キ、兵ヲ遣テ、ユ私地峽、
 及ビ其地ノ海港ヲ取ラシメ、且ツ此地峽、紅海地中海
 ノ間ニ連ルト、果ノ世ノ説ク所ノ如クナルヤ、否ヲ查

點セシム、エルアリスガサ、カ等ノ諸地ヲ略シ、一千七百九十九年、三月十八日、遂ニ「ア」ニ到ル、五月二十一日、那波列翁、アノ兵ヲ罷メ、士卒ノ病者ヲ其地ニ遺シテ軍ヲ旋シ、六月十四日、該禄ニ返ル、是ニ於テ、佛蘭西ノ兵勢ノ大ニ衰頽メ、振ハザルヲ、百方ニ救護淬勵ス、既ニノ都爾其ノ軍艦、アニ抵リ、兵ヲ發メ、其城ヲ取ル、二十六日、那波列翁、自ラ將トメ、之ヲ撃チ、都爾其ノ兵ヲ敗リ、又其城ヲ取り、以テ厄日多ノ役ヲ終フ、
此時、那波列翁、本國ノ檄書一通ヲ得夕リ、書中英吉利、

兵ヲ發メ、佛蘭西義團ヲ伐チ、勢極テ危急ナリト告ク、且、シ「エ」ス建議メ、那波列翁ヲ舉テ本國ノ兵破レ、地蹙ム者ヲ、恢復スル大將ヲラシム、是ニ於テ、那波列翁ハ、兵將「ケ」エベルニ命メ、己ニ代テ軍務ヲ總督セシメ、潜ニ「ラン」子ス、シ「ト」ベル「ル」マルモント、等ノ諸將ヲ率テ、厄日多ノ陣ヲ去リ、八月廿三日舟ニ上リ、十月初九日「レ」エニ到リ、舟ヲ舍テ旱路ニ就キ、十四日凱陣ノ景色ヲ為メ、ヤ「ッ」ス、バ「リ」スニ返ル、バ「リ」スノ府官、其歸リ援クルヲ喜フ者多シトイヘ、ハ「ニ」ス、或ハ其姦雄ニメ、測ルベカラザルヲ以テ、國家ニ不利アラントス、

懼ル者亦少カラズ、老政官、那波列翁ヲ封メ、諸軍總
 督ト為ス、但シ其職務ハ一定スル所ナク凡ソ萬姓共
 和ノ政治ヲ鞏固スルニ足ル者ハ知テ言ハザルナ
 カラシム、是ニ於テ、一千七百九十九年十一月九日、那
 波列翁盡ク舊法ヲ改革ス、老政官、幾名、政官五百名皆
 聖格、碌德ニ會議ス、勃那把爾的モ亦數隊ノ柘榴隊ヲ
 從ヘテ、其會ニ蒞ム、諸政官皆、ヲク夕トシ、選瑪ニテ昔
危急ナル時、ヲク夕トシ、官ヲ設テ弊政ヲ設ル不便
ヲ拯シ、アリ、ヲク夕トシ、ハ、上官ハ義ヲ設ル不便
ヲ訴ヘ、大ニ喚テ四面ヨリ、那波列翁ニ薄リ、其衣領ヲ
捉リ、劍ヲ拔テ之ニ擬ス、大將、レ及ビ柘榴隊士

一人之ヲ見テ、那波列翁ヲ救フ、會セトモ亦其兵ヲ
 率テ來リ援ケ、遂ニ拔勇鎗ヲ以テ、萬姓ヲ驅斥ス、次日
 一二ノ機密ヲ諳知セル人、相議シテ、ヲク夕トイレ來從
 有ル所ノ官ヲ停メ、新ニヲプロシヲ子レコンシル
州縣ノ事ヲ兼綜スル上政官、古ヘ羅馬三員ヲ立ツ、其
ノ共和義團ニモ、此官ヲ設シ例アリ、其三ハレ五コス
 一ハ、勃那把爾的、其二ハ、レシイレ左ス、其三ハ、レ五コス
 ナリ、十一月十七日、三人其官ニ拜セラレ、職ニ臨ム、是
 ニ於テ、新ニ制度ヲ定ムルト極テ神速、十二月十五日、
 早ク既ニ國內ニ布告ス、此レヲ共和義團、第四ノ改革
 トス、勃那把爾的ハ、第一位コンシルニ任シ、十年ヲ以

テ期トス、勃那把爾的、自ラカムバセレ、ハブルン、
二人ヲ薦舉メ、己レト同官タラシム、此時ニ方テ、意太
里亞ハ、既ニ敵ニ攻取ラレ、ドイ黄祁、俄羅斯、那波里、都爾其、
ノ諸國ハ、猶兵ヲ發メ來犯サントシ、英吉利ハ、從前ノ
盟ヲ破リ、又是ト和セズ、事勢已ニ是ノ如ク急ナルヲ
見テ、第一位コンニルル把爾的ハ、兵ヲテイヤン一會
シ、一千八百年五月下浣、ベルンハルズ山ヲ踰テ、兵ヲ
意太里亞ニ發ス、此ヨリ先キ、勃那把爾的、兵將、マスセ
ナニ命メ、兵ヲ意太里亞ニ出サシム、マスセナ敵兵ノ
強大ナルヲ見テ、兵ヲ收テ避去ル、是ニ至テ、勃那把爾

的、自ラ兵ヲ帥テ之ヲ援ク、六月四日進テ彌郎ニ陣シ、
シス、アルペイニノ共和義團ヲ復ス、佛蘭西ノ將、モレ
アウハ、兵ヲ率テ黄祁ニ攻入ル、適窩々所德禮畿ノ兵、
熱弩亞ニ克テ還ルニ遇フ、モンアウ其兵ヲ以テ之ヲ
圍ム、是ニ於テ、佛蘭西、黄祁一戰ニ勝敗ヲ決セントス、
十四日十五日、マレンゴノ側、テレスサニドリア、トル
トナノ間ノ平野ニ戰フ、兩軍健闘勢極テ猛烈、流血野
ニ被ル、佛蘭西ノ兵竟ニ大ニ戰克ツ、十六日、兩國講和
メ兵ヲ退ク、上意太里亞ノ地ヲ割テ、佛蘭西ニ與ス、
勃那把爾的ハ、竊ニ意太里亞ノ陣ヲ去リ、マスセナヲ

大將トシテ已ニ代ラシメ、七月初一日、巴里斯ニ返ル、
府人或ハ其歸ルヲ喜ブアリトイヘ、又其驕慢ニメ、
霸心日ニ盛ナルヲ嫉惡シ、因テ之ヲ害セント欲ル者
アリ、十月亂ヲ作ス者ヲ逮捕ス、十二月又一聲ノ爆炸
ノ下、勃那把爾的ヲ弒逆セント謀ル者アリ、然レ、
射中ラス、亦發覺シテ誅ニ伏ス、遂ニ大ニ餘黨ヲ搜索
シ、一千八百一年一月貴賤ヲ問ハズ、雅谷貌義團ノ人
員一百三十名ヲ緝捕ス、其七十名ハ放流シ、アレ、
セシ等、人ハ、初次ノ亂ニ與シ、此ニ至テ尚逆心ヲ懲創
セザル故ヲ以テ、首ヲ刎ノ刑ニ處シ、且

ブレ五クト府知ヲメ、遍ク人家ヲ搜索シテ、兵器ヲ匿ス

者ハ盡ク繳納セシメテ、官庫ニ鎖ス、是ヨリ前、一千八

百年九月三日、北米里堅メリカ合同國ト和シ、兩國貿易ノ法

制ヲ約ス、窩々所德禮畿モ、亦モレアウガ為ニ破ラレ、

テ後和ヲ請ヒ、一千八百一年二月九日、左子、イルレニ

盟ヒ、列應河左岸ノ地一帯、和蘭土ニ至ルマデ、盡ク佛

蘭西ニ割與ス、但英吉利ハ、未ダ和ヲ講セズ、三月廿八

日、兩齊西里亞王ト和シ、七月十五日、寶帥イタリア、意太里、上、コ

ンコルダ上ト盟フ禮ス、王侯寶帥ヲ行ヒ、八月廿四

日、バル以ベイエレン國ト、別ニ盟誓ヲ為シ、全廿八日

故ノ拔答盼亞義團ト和シ、九月廿九日葡萄牙ト多勒
多ト和議ヲ結ビ、十月初一日、大貌利丹尼ト和議ヲ謀
ル、全月初八日、俄羅斯ト和シ、其後都爾其ト和ヲ議ス、
是ニ於テ、十一月初九日、巴里斯ニ於テ諸國講和偃武
ノ祭祀ヲ行フ、此レ第一位コシシル、新ニ凱旋スル
ヲ祝スルナリ、此ヨリ前六月、阨日多リ軍利アラズ、僅
ニ佛蘭西ニ屬シタル地モ、盡ク之ヲ敵ニ割與ヘ、既ニ
メ、殘兵僅ニ國ニ返ルヲ以テ、臣民深ク慚愧ス、此ニ至
テ、人々初チ阨日多ノ恥ヲ遺レタリ、
是ニ於テ、勃那把爾的ハ、諸學術ヲ隆興シ、交易ヲ盛大

ニシテ軍艦ヲ修補シ、植民ヲ弘恢セント欲シ、殫精焦思、
專ラ其事ヲ務ム、一千八百二年一月、コンシル親衛ノ
兵ヲ率テ「イラン」ニ赴キ、意太里亞國內ハ「シス、アル
ペイン」地名義團ヲ復ス、百官議メ、勃那把爾的ヲ以テ之
ガ總裁タラシム、三月、大貌利丹尼ト「アミイン」名ニ會
メ和議ヲ定ム、勃那把爾的ハ、既ニ土地ヲ墾闢シ、人民
ヲ蕃殖シ、寶帥ト「コンコルダ」ト上ニ見ユヲ舉行テ國法
ヲ正シ、繼デ佛蘭西國內寺院ノ法制ヲ約シ、廢蕪セル
學校ヲ興シ、僧寺ノ祭祀ノ廢シタルヲ舉ゲ興シ、邦人
ハ他國ニ散在スル者ヲ處措スル新法ヲ建ル等ハ善

政ヲ施スヲ以テ民心歸服シ、人々嘖々トシ、其德澤ノ
 深キヲ誦ス、故ヲ以テ五月八日、議政官、勃那把爾的ヲ
 冊メ、コシシル位ニ居ラシメ、政ヲ行フ、更ニ十年
 ヲ期トス、勃那把爾的ハ、既ニ其請ヲ允シ、仍其位ヲ踐
 ミ、國政ヲ躬ニス、又國民太半、勃那把爾的ヲメ、畢生此
 位崇在ラシメント諮議シ、因テ先ヅ其功勳ヲ賞メ、工
ル、レギラン其制、七十人許ヲ備ス、工ハ、顯榮ノ
 義、蓋シ功勳ヲ褒賞メ、別ニ親衛ノ兵ヲ錫フ、勃那把
 爾的ハ、新ニ此兵隊ヲ得テ、權勢増昌ニ、諸官人ヲ籠絡
 ス、是ニ於テ、衆民連署上表シテ、上ニ云ヘル如ク、勃那

把爾的ヲ一生コシシルノ位ニ在ラシメント請ス、八
 月二日、政官會議ノ之ヲ准シ、遂ニ勃那把爾的ヲ其位
 ニ冊立シ、畢生其官ニ任スルヲ命ズ、勃那把爾的ガ位
 爵、今ハ則チ、諸政官ノ上ニ在テ、文武百官、皆己ガ指揮
 ニ、從ハザル者ナク、威權赫奕タリ、八月廿七日、百官咸
 ク忠盡ニメ、他心ナク、コシシルヲ奉戴スベキノ盟書
 ヲ上ル、是ニ於テ、義團ノ朝廷、無事ナルヲ以テ、勃那把
 爾的、心ヲ專ニメ、外國ヲ蕩平スル策ヲ施シ、八月廿六
 日、工ルバ島ヲ收テ、我共和義團ニ屬ス、赫勿婁亞ノ國
 民、亂ヲ作ス、是ヨリ前、其國獨立シテ、屬スル所ナシ、此

ニ至テ、佛蘭西ニ内附シ、其命令ヲ聽ク。比蒙突ヲ并テ、佛蘭西ノ郡縣ト為ス。新ニ學校ノ制度ヲ定メ、士民ノ律令ヲ刊シ、街衢ヲ修メ、溝渠ヲ疏鑿ス。是ニ由テ、庶民ノ間、曠素業ナキ者皆恒産ヲ得タリ。此諸仁政ヲ行フ間、英吉利ノ日刊朝報ヲ得タリ。曰ク、其國勃那把爾的ヲ疾ム心深クメ、謂ク渠今和議ヲ講スル者ハ、姑ク其難ヲ弭メテ、大ニ戰艦ヲ修メ、海軍ノ力能ク我ニ敵スルニ足ルヲ須テ、其和盟ヲ破リ、以テ佛蘭西宿世ノ讐ヲ報セントスルナリト云ヘリ。然ラバ則チ、英吉利ハ和議ニ狃安メ、我軍備全成ルヲ俟ツ心ナキト明カナ

地異國言

夢

リ、宜ク彼ニ先ダチ發スベシト、軍議ヲ定ム。是ニ於テ、兩國交書ヲ遺テ、非義ヲ責メ、和議遂ニ又破レ、一千八百三年、五月、英吉利ト戰ヲ交ユ。ハノーフルハ、兩國ノ間ニ首鼠ス、勃那把爾的大將、モルチールヲ遣テ、之ヲ伐シメ、六月三日早ク既ニ其城ヲ圍ム。巴ニメ和ヲ請ヒ、^リリ^ンゲ^ンノ地ニ盟フ。故ヲ以テ佛蘭西ハ、手ヲ下サズメ、ハノーフルヲ降シ、一切武器銃礮糧馬ヲ繳納セシム。英吉利ハ、既ニ前盟ヲ守ラズ、又佛蘭西ハ、ハノーフルヲ取ルヲ坐視シテ、之ヲ救フ^レ能ハズ。佛蘭西ハ、英吉利ヲ征討スルニ、須ル所ノ兵備既ニ整ヒ、又黃

申與國戰補

卷四

三

夢

祁我ニ信從シテ、英吉利ヲ防禦スル便宜ヲ得タリ、是
 ニ於テ、「コンチンチンタルス、テルスル」歐邏巴、大陸同
吉利ト交ヲ絶チ、且四邊諸港ニ、英吉利ヲ定メ、一千八
船及ビ貿易貨物ヲ通ゼル法、制ノ名、百三年六月廿日、英吉利ノ百貨ヲ、佛蘭西諸埔頭、運
 入ルヲ嚴禁シ、其英吉利海岸ヲ、掩擊スル軍艦ハ、盡ク
之ヲ「ハッフレヨリ、」「ラステンデニ、」至ルヤ、デノ諸港脚ニ
 集メ、又其全隊軍艦ハ、「トウロニ」ニ屯聚ス、而シテ其掩襲
ニ備タル、軍艦モ皆未ダ戰鬪ヲ始メズ、此時英吉利ハ、
 兵ヲ發メ、佛蘭西、黃祁ノ諸海港、及ビ「エルベ」空「セル」
 二河ノ諸地ヲ襲ヒ撃ツ、一千八百四年三月十五日、勃

東亞地輿圖

那把爾的ヲ弑シ、亂ヲ作サント謀ル者アリテ、其事發
 覺ス、「ヒセグ」セ「ルゲ」ス其首謀タリ、其餘逆徒四十
 三人、皆前後捕ニ就ク、モ「レアウ」モ亦、其數中ニ在テ生
 擒セラル、又此逆黨、佛蘭西人ノ避テ、外國ニ在ル者、及
 ビ英國ノ使節、黃祁ニ居ル「アゲンテン」巡哨官等ト、密
ニ書ヲ通メ、内外相應セント謀ルヲ告ル者アリ、是ニ
 於テ急ニ「ゴウリン」コウル」ニ命シ、二隊ノ兵ヲ統領
 セシム、三月十四日、十五日ノ夜、兵ヲ潛テ列應河ヲ涉
 リ、其備ザルニ乗メ、バ「テン」部内ニ進ミ、ケ「ール」テ
ンヘイム」ヲ圍ミ、「」ニ「グアイ」ン」ノ赫督撫、西史外傳ニ、
其小傳アリ、

三三 德震樓藏

ヲ緝捕シテ巴里斯ニ致シ軍議廳前ニ引出シ同廿日
ノ夜之ヲ砲殺ス俄羅斯雪際亞之ヲ聞キ其國民共同
ノ公法ニ背キ縱ニ公候ヲ誅戮スルヲ責ム佛蘭西其
反逆不軌ヲ謀ル大罪ヲ犯スヲ以テ巴ムトヲ得ス之
ヲ戮殺スルヲ辭シ因テ英吉利ノ使臣フランシスダ
ラトケハハ、シンセシノ地ニ、スペンセルスシトハ、ス登
トガルドノ地ニ在テ竊ニ佛國ノ内亂ヲ起ント謀ル
證憑ヲ告ク二人ハ之ヲ聞キ急ニ英國ニ返リテ其由
ヲ訴フ英國二人ノ為ニ其無罪ノ狀ヲ佛國ニ白ス然
レ厄此二人ハ實ニ隱謀ナキニ非ズ是ニ於テ佛蘭西

聖賢抄

ノ諸官相議テ曰ク是ノ如ク非分ヲ僥倖スル者踵ヲ
繼テ起ルハ畢竟我國體共和義團ニメ常主ナキヲ以
テナリ宜ク傳世ノ良主ヲ擇ビ立テ以テ狂悖ノ徒妄
ニ大位ヲ覬覦スル心ヲ杜絶スベシ是ニ於テ衆議初
テ定リ一千八百四年三月三十日トリ豆ナトトニ代庶
リ政令ヲ布ヨリ諭文ヲ下シテ新ニ皇帝ヲ冊立シ萬
施スル官機ヲ一身ニ任ジ其位ハ世々勃那把爾的姓ノ親族ニ
嗣ガシメバ如何ト國中ニ布告ス諸州縣ヨリモ各上
疏シテ固リ願フ所ノ幸ナリト陳ズ是ニ於テ五月十
八日セナトト大議政又躬自ラ會議ノ席ニ臨ム既ニメ

三番 聖賢抄

衆心一揆、百議咸同。久本月二十日、又論文ヲ下シ、盛儀
 又具テ、那波列翁ヲ奉シテ、傳世皇帝ノ位ニ、即シメタ
 ルヲ國中ニ布告ス、國內處々ニ分鎮
 是ニ於テ、レイクス、マールシカル、
 云ハ官ニ任ジタル顯貴諸將、咸相會メ、曰ク、今度ノ即
 位、恐クハ却テ後來ノ大旣、又惹出サント、先見ヲ述ベ、
 眉ヲ攢テ私言セリ、然ルニ帝ハ、新ニ大位ニ升リ、初テ
 天威ヲ振テ、下民ヲ懾服セント欲シ、逆黨ノ刑ヲ正ス、
 此セグ、^レハ、是ヨリ先、四月六日、擒セラレテ、獄中ニ死
 シ、モレアウハ、^レ反逆ノ事ヲ知レ、^レ臣黨與セザルヲ以テ、

初ハ判ノ曰ク、多年獄中ニ幽囚スベシト、既ニテ恩典
 ヲ蒙リ、米里堅ニ遯レシム、獨リセラル、^レハ、其黨九人
 ト俱ニ、六月廿五日、誅ニ伏ス、其餘或ハ赦サレ、或ハ寺
 院ニ徙サレ、逆黨盡ク平ク、勃那把爾的ハ、天子ノ位ニ
 即ク後、霸心昌熾シ、歐邏巴全洲ヲ奄有スル志アリ、此
 時佛國ハ、兵馬精練、向フ處必ス克チ、加フルニ、皇帝英
 武ニメ、他國皆望デ之ヲ懼ル、^レヲ以テ、國勢自ラ強大
 トナリ、近國ハ士氣懈惰、兵制弛弱シ、其餘諸國モ、率子
 皆太平ニ慣レ、苟且偷惰、恰モ睡漢ノ如ク、一人モ目ヲ
 張リ氣ヲ鼓シ、中原ニ抗衡スル志ヲ抱ク者ナシ、是ヲ

以テ勃那把爾的、縱ニ隣近諸國ヲ劫略スル、一ヲ得夕
 リト云、其年十二月二日、寶帥勃那把爾的ニ皇帝ノ金
 冠ヲ巴里斯府ニ賜フ、大禮已ニ畢ル後、先シ意太里亞
 ヲ討テ、先ニ建タル義團ヲ滅ス、一千八百五年三月十
 五日、國人勃那把爾的ヲ立テ、意太里亞王トシ、其義
 子「エウゲリス、ペアウハルナ」トシ、小王ト為シ、皇妹
 「エリサヲ、ピラムビノ」地名布綸錫帥ニ、其夫「シラシ
 ヲ、カノ布綸帥布綸帥ハ必ス布綸錫帥ト呼フヲ、異ナリ
 ト、ニ封ズ、其熱努亞バルマ「ピアセンサ」及ビ古ノ比蒙
 突諸國ハ、皆佛蘭西ニ併ス、既ニノ軍ヲ班メテ、意太里

亞ヨリ返ル、適窩々所德禮畿、新ニ英吉利、俄羅斯ト合
 從スルヲ聽キ、急ニ兵ヲ興メ、黃祁ヲ伐ツ、九月廿五日
 廿六日、列應河ヲ濟リ、バ「デー」空ルテムベルグ以上
 外蕃譯史ニ國下和ヲ結ブ、此時俾魯連地名上黃祁
 條ニ、參考スベシ、下和ヲ結ブ、此時俾魯連地名上黃祁
 ヲ離テ、佛蘭西ニ附ク、既ニメ向フ所皆克テ、遂ニ兵ヲ
 窩々所德禮畿ニ進メ、一千八百五年十一月十三日、大
 將「エ」早ク既ニ勿能府ニ入ル、那波列翁陣ヲ進メ
 テ「スコ」ンブ「エ」ニ到ル、十二月二日、俄羅斯ノ兵ヲア
 ウステルモツニ破ル、帝弗朗氏帝和ヲ講シ、兵ヲ止
 ント請フ、同廿六日「プレ」ス「エ」ル「グ」ニ會シテ盟口、是ニ

由テ、窩々所德禮畿ハ、數州饒沃ノ地ヲ喪ヒ、俾粵連ハ、
 中デシ、空ルテニベルクノ三國ハ、數州ヲ益封シテ、爵
 ヲ王國ニ晉ム、又李漏生ト和ヲ結ブ、李漏生ハ、
 此ヲ佛國ニ割與フ、是ヲ以テ、李漏生、英吉利ト、交惡ミ
 テ、兵ヲ構フ、ハ、故ト英國ノ親戚ノ國、今李
漏生、縱ニ之ヲ佛國ニ割與フ、故ニ兩國相
交惡、一千八百六年、群臣奏議メ、佛蘭西皇帝ニ、
 口トテ、帝大別號ヲ上ツル、是ニ於テ、帝ノ志倍、侈大
 ナリ、俾粵連王ノ女ヲ以テ、帝ノ義子、ベアウハルナ
 スニ配シ、帝ノ正妃ノ姪女ハ、バトデシノ太子ニ婚シ、
 三月帝ノ僚姻、江多トヲ、セレトヘベルグニ地ニ封シ

赫督撫ニ爵ス、皇弟ヨセフヲ、那波里、齊西里亞ノ王ニ
 封ズ、勿搦祭亞ハ、佛蘭西版圖ニ合ス、トラスタルラ地
 ハ皇妹パウリ子ニ、子ウフカトテ地ハ、名ル名ロフ
 ス、ミニスト軍政都指揮、名ハ、ベルニ賜ス、皇帝口
 ヲス和蘭王タルレイランド、ベルナドトノ二人ヲ
 封メ、各、赫督撫トナス、其餘將軍、川ゲルホ都指揮ニ
ト等ハ、其軍功ト、上ニ仕ル勤惰トニ應メ、戦ヒ取ル
 所ノ國ニ於テ采邑恩賞ヲ賜フテ差アリ、一千八百六
 年七月十二日、列應義團ヲ建ツ、那波列翁之ガ防衛タ
 リ、乃チ之ヲ天下ニ布告ス、八月帝弗朗氏羅瑪、黃祁ノ

帝位ヲ去ル是ニ於テ古ヘヨリノ黃祁國制盡ク瓦解
ス、孛漏生ハ一旦佛蘭西ト和スト雖レ其凌轢^ト堪ル
不能ハズ又兵ヲ舉テ佛蘭西トエナ及ビ^テ空ル^ス多
トニ戰テ皆敗ラレ其堅固ナル城寨數處皆舟^ル且能
ハズ佛蘭西ニ降ル沙瑣泥亞ハ孛漏生トノ通路ヲ斷
タレ相呼應メ救援スルト能ハズ^ハスセシ^ノ鳩兒^ハ豐^ボ
瑟督^ト尤貴^キ者^ハ連戰皆敗レ其國ヲ出奔ス十月廿
七日那波列翁兵ヲ引テベルレイニ入り十一月初
一日英吉利ヲ圍ミ攻ル軍令ヲ下シ且彼ト交易シ相
親交スルヲ嚴禁ス佛蘭西帝波羅尼亞ノ股削セラレ

タルヲ憐ミ其版圖ヲ故ニ復セント約ス^{元ト俄羅斯}
為ニ削弱^セ俄羅斯急ニ孛漏生ヲ救フ一千八百六年十
二月廿六日^日位^スキニ戰フ俄羅斯ノ兵敗レ走ル明
年正月七日^日エイラウニ戰テ又大ニ敗北ス都爾
其ノ兵俄羅斯ヲ犯ス是ヲ以テ兵力分レテ益弱シ^加
之^トイルスベルグ^トラストロレシカ^ノニ地ノ軍利ナ
クアリ^ドラジド^ノ戰モ亦敗ル是ヲ以テ俄羅斯孛
漏生終ニ和ヲ佛蘭西ニ請ス七月七日^日チル^ト
ニ盟ス孛漏生ハ兵卒ヲ亡フ^テ四百萬餘且累萬ノ煙
土銀ヲ貢納スルヲ約シ其銀兩齊足スルニ至マテ堅

固ノ城寨數座ヲ佛蘭西ニ典當ス、是ニ於テ、佛蘭西皇
帝ハ赫督撫國「ワ」ルスカウノ一部ヲ沙瑣尼亞王ニ賜
ヒ、新王國望スト子トレシノ一部ヲ「ヒ」ロニ立スニ
賜フ、「ヒ」ロニ立スハ、帝ノ同胞、是ヨリ前「ヒ」ルテムベ
ル「グ」ノ王女ノ布綸錫帥ニ封ズル者ニ婚セリ、
是ニ於テ、那波列翁ハ、巴里斯ニ凱歸シ、一千八百七年
十月廿七日、「タ」ンタイ子ブレアウノ地ニテ、竊ニ是班
牙ト和睦シテ、葡萄牙ヲ救ハザラシメ、即チ兵ヲ率テ
葡萄牙ヲ伐テ、陽ニ是班牙ト和スル狀ヲ為シ、却テ潛
ニ兵ヲ發メ、之ヲ攻メ、ハト上リ、「エ」ヲ取テ、佛蘭西ニ併

ス、大ニ嚴令メ、英吉利ハ、互市ヲ禁ズ、此レ大害ヲ彼ニ
生メ、困迫セシメントスルナリ、那波列翁ハ、既ニ諸國
ヲ兼併メ、兵力日ニ彊大トナリ、勢ニ乗メ、猶近國ヲ合
メ、佛蘭西國域ヲ開大ニセント欲シ、一千八百八年、一
月一日、其順從セルヲ時トメ、「ケ」ルカステル「シ」セ「ル」フ
ル「シ」ンケンヲ收テ、佛國ニ併ス、是班牙ニ、内亂アリ、黨
ヲ分テ相攻ム、佛蘭西帝、之ヲ利シ、遂ニ其國ヲ奪ヒ、皇
弟那波里王ヨセフヲ、徙封メ、是班牙王トシ、帝義弟ニ
ス、「ト」ヲ遷メ、那波里ニ王タラシメ、大赫督撫地ベルグ
ヲ、和蘭王ノ幼子ニ賜フ、俄羅斯帝、那波列翁ト「エ」ル

ルトノ地ニ會メ更ニ前盟ヲ申固ス、英吉利、佛蘭西ノ
是班牙ヲ奪ヲ見テ之ヲ疾ミ、兵ヲ舉テ佛蘭西ヲ討ツ
十月廿九日、那波列翁其地ニ赴キ、英吉利ヲ破ル、窩々
斯德禮畿又兵ヲ舉テ來リ寇スルヲ聞キ、急ニ兵ヲ旋
メ之ヲ拯テ、黃祁帝弗朗氏ハ佛國ノ為ニ數々敗ラル
ルヲ以テ更ニ尚兵ヲ起メ宿仇ヲ雪ガント欲シ、一千
八百九年、四月九日、戰書ヲ那波列翁ニ贈ル、窩々所德
禮畿ノ兵終ニ又敗ル、五月十二日、和ヲ請ヒ、勿能府ヲ
佛蘭西ニ附ス、七月十二日、兵ヲ撤シ、十月十四日、佛蘭
西、窩々所德禮畿、勿能ニ盟ヒ、更ニ數州ヲ割テ、佛蘭西

ニ與ヘ、且鉅萬ノ煙土銀ヲ獻貢ス、那波列翁ノ元妃ヨ
セヲ子ナシ、那波列翁之ヲ廢セント欲ス、一千八百
九年、十二月十六日、遂ニ之ヲ廢ス、初メ那波列翁ハリ
ア、口有セテ、窩々所德禮畿ノ亞鴉爾都赫督其爵ハ
ニ全シ、但婦人ノ官ハニ封ス、是ニ至テ立テ、繼妃ト
語尾ヲ異ニスルノミ、ニ封ス、是ニ至テ立テ、繼妃ト
ス、此際、又意太里亞小王ヲ、ホルスト、プリマー第一
督位ヨリ陞シテ、フランキホルト地名黃祁中央ニ在リ、世傳赫
督撫トナス、ハノ一フルヲ、左スト、右トレニ合メ、一
州トナス、七月初一日、和蘭王ヲ廢ス、居ル一二日ニ
メ、又之ヲ佛蘭西ニ合ス、又ワルシセルラント、及ビニ

ムス空セル、エルベ、三河口邊ノ、列應義團諸地、ハンセ
一府、ヲルテンビル、大赫督撫領ベルグノ一部、及ビ
空スト、トレン等、諸地ヲ割テ、佛蘭西ニ并ス、
是ニ於テ、那波列翁ガ威勢、已ニ其隆盛ヲ極メ、歐邏巴
ヲ蠶食メ、大半皆號令ニ從ス、但、是班牙トノ戰、未ダ終
ラザルノミ、而メ英吉利モ、未ダ全勝ノ利ヲ收ムルコ
能ハズ、其俄羅斯モ、亦其心測ル可カラズ、一千八百十
一年、俄羅斯、雲際亞、再ビ兵ヲ舉テ、佛蘭西ヲ伐、以佛蘭
西大ニ、兵ヲ備テ、之ヲ防ク、雲際亞ノ兵、速ニ黃祁ノ數
州ヲ下ス、但、李漏生ノ諸城寨、及ビ「ダンチ」ハ尚、佛蘭

西ニ屬ス、黃祁、波羅尼亞ノ地方ニハ、諸國ノ軍勢雲集
シ、那波列翁ハ、大燾下ニ在テ、俄羅斯ト戰ントス、一千
八百十二年五月九日、那波列翁ハ、聖格碌德ヲ發シ、六
月廿四日、廿五日、其軍コイノン河ヲ濟リ、九月十五日、
莫斯科窪ニ兵ヲ進ム、俄羅斯火ヲ舉テ、府城ヲ燒ク、那
波列翁、罷弊シタル兵ヲ、莫斯科窪ニ頓シ、冬月ヲ涉リ、
春ノ來ヲ待ント欲ス、然ルニ今、其府城盡ク、燒夷セル
ヲ以テ、兵馬ヲ休息スルニ地ナク、進退窘迫シ、十月十
七日、已ムコトヲ得ズ、兵ヲ退ク、大軍ノ兵士、凍死相望ミ、
生還ル者數千ニ過キズ、那波列翁、已ニ大兵ヲ挫折シ、

又「マ」ト「トイ」フ者亂ヲ作シ佛蘭西帝位ヲ傾覆セン
ト謀ル急報ヲ得テ急ニ「ス」モ「ロ」グノニ於テ納波里王
ヲメ、已ニ代テ殘兵ヲ指揮セシメ、十二月十八日、自ラ
巴里斯ニ返ル、是班牙ノ兵亂熾ニメ、亦佛蘭西ノ為ニ、
甚ダ利アラズ、初メ寶帥ポラス是班牙ノ動亂ヲ平ケント欲
シ、兩國ノ中ニ居テ之ヲ和解ス、其言フ所那波列翁ノ
為ニ不便ナルヲ以テ聽カレズ、寶帥那波列翁ヲ罰メ、
法縁ヲ斷ント欲ス、那波列翁怒テ之ヲ擒ヘ、巴里斯ニ
送リテ幽囚ス、是ニ至テ是班牙ノ人心ヲ收ント欲シ、
一千八百十三年一月廿八日、ラ「ン」タイ子ブレアウノ

地ニテ寶帥ノ囚ヲ釋シテ舊盟ヲ尋キ、其盟ヲ名テ十
全完成コ「ン」コ「ル」ダ「ト」ト上ニ詳ナリト名テ以テ新ニ其亂
ヲ戡靖ス、三月廿七日、李漏生戰書ヲ那波列翁ニ贈ル、
那波列翁進テ、黃祁ノ中央ニ次ス、五月二日、寫「ン」ニ
戰ヒ、二十日廿一日、バ「ツ」空「ル」セ「ン」ニ地名、拔隊龍
隊伍ト戰テ、皆之ニ克チ、轉メシ「レ」シ「ア」ニ攻入ル、ダホ
ウ「ト」名ハ、ハ「ム」ビ「ル」ノ地ヲ復シ、六月四日、兵ヲ止ル
ヲ約ス、窩々所德禮畿兩國ノ兵ヲ和セント欲シ、アラ
「グ」ノ地ニ於テ和議ヲ謀ル、和議成ラズ、八月十日、窩
々所德禮畿又反シ戰書ヲ佛蘭西ニ贈ル、遂ニ「テ」レ「ス」

デレニ戰フ、窩々所德禮畿ノ兵戰敗ル、モレアウ重創
ヲ蒙ル、此ヲ那波列翁ガ最モ後ノ勝トス、八月廿六日、
カイスバグニ戰フ、武略舍爾西史外傳ニ見ユ、勇戰シテ、佛蘭
西ノ軍ヲ破リ、全軍敗走ス、廿九日、トヲドガ一軍皆
覆ス、雪際亞太子、兵ヲ率テ黃祁ニ入ル、九月六日、那波
列翁、デレスデレノ兵ヲ撤メ、レイプシフニ入ル、是レ
敵ニ佛蘭西ノ歸路ヲ斷ル、ヲ懼ルレバナリ、佛蘭西
ノ軍、戰フ毎ニ利ナク、十六日、兩軍交綏シ、十八日、全軍
又敗績シ、十九日、其兵過半、列應河ヲ濟テ卻ク、ハナウ
ノ大敗ノ後、遂ニ聖格球德ニ返ル、一千八百十三年、十

二月初一日、同盟諸國那波列翁ヲ誅討、ハウシキ、ハル

トニ在リテ、書ヲ那波列翁ニ遺ル、那波列翁、書ヲ披覽
スレ、斥、悛ル心ナシ、然トモ同盟諸國ノ兵、已ニ列應河
ヲ濟テ來迫リ、英吉利ノ兵將、空ルリニグトシ、ハ、北、
擗、何山ヲ踰テ、カロン子ノ野ニ陣ス、那波列翁ハ、是ニ
至テ、カレニシ、アニ幽囚セル、是班牙王ヘルチナン、ト
ヲ赦シテ和好ヲ結ヒ、因テ同盟諸國ニ和議ヲ謀リ、軍
ヲ退クルトヲ請ハ、同盟諸國尚兵ヲ退クベク、那波
列翁ガ威力、此時猶大國ヲ保有メ、富貴ヲ失ハサルニ
足レリ、然ルニ彼ガ策、此ニ出テズ、一千八百十四年、一

北興國誌 卷四
月廿五日、巴里斯府ヲ去リテ、竟ニ自ラ零落ヲ招クニ
至レリ、爾後少ク戦捷トイヘル、録スルニ足ラズ、千
八百十四年二月初一日、ブリーン子ニ於テ、又武略舍
爾ガ為ニ破ラル、勢已ニ是ニ至ルトイヘル、和ヲ請ハ
、猶敵ヲ退クベシ、然レ彼猶己ガ驍勇ヲ恃ミ、一時ノ
小利ヲ見テ、恢復ヲ謀シ、トヲ僥倖シ、自ラ省ルヲ知
ラズ、三月三十日、同盟諸國勢ヲ合メ、其全軍ヲ破テ盡
ク之ヲ降シ、午後、武略舍爾^{モントワルト}ヲ取リ、俄
羅斯帝、孛漏生王、及ヒ同盟諸侯ノ前軍、皆進テ巴里斯
ニ入テ血戦シ、三十一日、城兵和ヲ請ヒ門ヲ開テ降ル、

敵兵巴里斯ヲ取ル、那波列翁逃去、ボシタイ子ブレ
アウニ至ル、四月二日、同盟諸國、及ヒ佛蘭西、民庶頭領、
皆會議シテ、那波列翁ヲ廢シ、ボウルボン家ノ宗室ヲ
立テ、再ヒ佛蘭西王ト為ス、^{羅德解吉}五月十一日、那
波列翁ヲメ、大位ヲ避シムル、表文ヲ遺ル、那波列翁之
ヲ准シ、位ヲ避ル、詔ヲ書シ、自ラ姓名ヲ著人、之ヲ還ス、
是ニ由テ、エルバ島ヲ與ヘテ、此ニ君臨セシム、廿八日、
シントラヘアウヨリ、舟ニ乗メ、エルバ島ニ到ル、此地
ハ、フレイス港ノ近傍ニ在リ、是ヨリ前十五年、那波列
翁、厄日多ヨリ、凱旋セシ寸、フレイス港ヨリ、上陸シテ、

佛國ニ返ル、威勢烜赫、人皆望テ驚歎セリ、今ハ則チ帝位ヲ避テ、孤島ニ入り、復タ此地ヲ過ク、盛衰起伏ノ狀殊ニ酸鼻スベシ、那波列翁、エルハ島ニ在テ、佛蘭西ノ人民、新政ニ服セズ、士庶及ビ、有土名族、皆那波列翁ヨリ懷テ心深ク、且勿能ノ會盟ノ後、諸國平治メ、武ヲ偃スルノ告文ヲ得テ、窃ニ喜ビ、又恢復ヲ謀ル志アリ、一千八百十五年、二月廿六日、一千百人ヲ率テ、ブルキ等船ニ駕シ、三月初一日、フレレ_ニス實按スルニ、佛蘭西部内ノ近傍、カン子スニ上陸シ、急ニ内地ニ進發ス、グレンブレ_レノ途ニ入、ラベド_レト_レガ統帥セル、一旅ノ兵馬

ニ遇ス、初ハ那波列翁ヲ遮リ、伐矢已ニメ、戈ヲ倒ニメ之ヲ援久、其晚、グレンブレ府ニ抵リ、十日_レイ_レフ_レニ進ミ、入ル、羅德勿吉十八世王、那波列翁ガ報ヲ聞キ、速ニ出奔ス、是ヲ以テ、一礮彈ヲモ費サズメ、廿日巴里斯ヲ取ル

勿能ノ會ニ臨タル帝王、公侯、此駭異スベキ、一事ノ告文ヲ得テ、新ニ令ヲ發メ、兵馬ヲ徵シ、五月下流進テ討征セントス、此時、那波列翁ガ兵卒、次第ニ增多シ、六月十三日、サムブレ河ヲ踰テ、空ル_リン_グト_ニ武略舍爾、二大將ガ統帥セル、李漏生、英吉利、涅埜爾蘭甸、陣ヲ

撃ハ林ス、十六日「ブレウ」五「リク」子「地」ニテ、兩軍血
戦ス、那波列翁ガ兵利アリ、此時其將「子エ」左翼ノ兵
ヲ率テ「多」ト「レ」ブラ「ス」名地ニ在テ「ブ」歩スル名地ノ途ヲ支
テ健闘ス、李漏生ノ兵ハ、佛蘭西ノ兵鋒ヲ避ケテ陣ヲ
退ク、英吉利、涅埵爾蘭甸ノ軍モ、同ク「ソ」イ「グ」子「ル」林ノ
側ニ卻キ曠野ニ陣ス、初ノ大將、武略舍爾二國ニ約シ、
此地ニテ三國兵ヲ合シ、那波列翁ガ掩撃スルヲ待テ、
之ヲ討ント謀ルヲ以テ、故ニ兵ヲ退クルナリ、那波列
翁ハ、英國ノ後隊、獨リ「ブ」歩スルノ道ヲ支フト謂ヒ、必
死ノ勢ヲ率テ、「ワ」ト「ル」ロ「」ノ高處ニ陣スル「空」ルリ

シ「グ」ト「」ガ、勇悍ノ兵ヲ撃ツ、大蒲里丹尼亞ノ餘隊、涅
埵爾蘭甸兵ヲ合メ大ニ戦フ、涅埵爾蘭甸ノ兵ハ、當時
ノ太子微爾敏一世王自ラ將トシ師ニ臨ム、日巳ニ昏ルニ及
テ、大將武略舍爾兵ヲ反メ來接ケ、佛蘭西ノ右翼ヲ撃
ツ、是ニ於テ、戦鬪極テ劇ク、而メ涅埵爾蘭甸ノ太子ハ、
殊死敵ニ中リ、驍勇比ナシ、是ニ於テ、敵兵盡ク敗歟シ、
巴里斯ニ向テ潰走ス、升一日、那波列翁、巴里斯ニ卻ク、
次日、民庶會合シ、大將ソリク「ク」モ、亦那波列翁ヲ諭
メ、大位ヲ其子ニ讓ラシム、是ニ於テ、那波列翁、再ビ其
位ヲ去ル、然ドモ此策成ラズ、終ニ國祚ヲ永フスル下

能ハズ、那波列翁ハ、名地ニ流落シ、コセル
 止ニ赴キ、海ニ航ノ米里堅ニ到ラントス、英國ノ巡
 哨船原名、ゴロイセルニ巡哨ス、故ニ名ク、義海其去路ヲ遮ル、七
 月十四日、英吉利ノ甲必丹マイトランドニ降ル、次日
 ベルレロホト名ル船ニ徙シテ、英吉利ニ輸シ、生擒
 シテ聖意勒納島ニ流竄シ、ロングウール島意勒納ニ
 幽シ、英吉利ノ兵士嚴ニ呵衛ス、然ドモ一身康彊、病ム
 所ナシ、一千八百廿一年五月五日、病ヲ没ス、壽ヲ享ル
 一五十一歳又九箇月、是ニ於テ遺命ニ遵テ島内某溪
 ニ葬ル、其墓碣ニハ、一兵將ニ諡ルベキ、剛勇等ノ字面

ヲ鑄ス、一曰、二十日、...

那波列翁没メ二十年ノ後、即チ一千八百四十年、皇帝ノ禮ヲ以
 テ、佛蘭西本都巴里斯ノ老廢軍卒院ニボテル、デル、イ内
 ニ歸葬ス、初メ佛蘭西民庶、訛言シテ曰ク、一千八百四
 十年ニ丁テ災異アリト、人心之ガ為ニ、洵々トシテ安
 カラズ、那波列翁ヲ慕ヒ、今王ノ政ニ心服スル者少シ、
 是ニ於テ、議政大臣會議メ、那波列翁ノ靈柩ヲ、聖意勒
 納島ヨリ、巴里斯ニ搬運シ、皇帝ノ禮ヲ用テ厚ク葬リ、
 以テ民心ヲ綏服セント請フ、乃チ使ヲ英吉利ニ遣リ、
 歸葬ヲ准スヲ請ヒ、王子トインブル名地ノ布綸帥名

ハ、口才ス、ヲ少_レピニ命メテ、ヘルレ、船ノ號_レ、總督夕ラ
 シ、帝ノ靈柩ヲ海運ス、本國ニ返ラシム、七月七日、_ト
 ウロ_レヲ發シ、十月八日意勒那島ニ到リ、十五日ノ夜、
 葬宅ヲ發掘ス、英、佛、二國ノ_官ゴミサリス、官監察之ニ臨ム、
 黎明棺ヲ啓ク、其屍二十年ヲ經トイヘ、少_クモ腐壞セ
 ズ、十六日午後、柩車溪内ヲ發ス、一聲煩ヲ打放メ、暗號
 ヲ為ス、既ニ船ニ到レバ、日已ニ晚ル、携ル所ノ僧侶、諷
 經メ、靈柩ヲ守衛ス、後
 十六日、船内ニ靈柩ヲ供養スル禮ヲ行フ、十七日船ヲ
 發ス、十一月三十日、ゼルボウル_クノ港ニ著ク、遂ニ靈

柩ヲ蒸氣船ニ徙シ、十二月十五日巴里斯ニ入ル、此日
 靈柩ヲ警衛スル官員、儀仗極テ華整、諸隊軍員、各、百般
 兵器ヲ操ル、其數十二萬五千人、靈柩ノ過ル所、道上織
 沙ヲ撒布ス、觀者道側ニ填咽シ、其數十萬許、或ハ多金
 ヲ出メ、空屋ヲ僦シ、窓戶ヲ借ルニ至ル、
 葬儀ノ鹵簿モ、極メテ嚴整、老廢軍卒大院ニ向テ進ム、
 佛蘭西王口デ空一キ、ヒル_レプ_レ、群臣ヲ從ヘ出テ靈柩
 ヲ迎フ、歩兵、騎兵、樂部ヲ分テ、四十五隊ト為ス、アヤシ
 ク_レガ_レ波列翁ノ使臣モ、亦其數内ニ在リ、樂官二百人、挽
 歌ヲ奏ス、既ニ寺内ニ入ルニ及テ、亞鴉爾都俾斯坡_一

等僧 俾斯玻十二員、皆紫衣ヲ穿テ、レイキヂインス止
 官 引導供_ヲ行フ、樂負五百名、歌員男女百五十名、迭ニ挽
 養ノ類_ヲ奏ス、レハ極テ華整、長_ハ和蘭ノ十エ_ル、レ一エ_ルハ、レ三尺ニ寸九分
 我 柩車ノ制ハ極テ華整、長_ハ和蘭ノ十エ_ル、レ一エ_ルハ、レ三尺ニ寸九分
 二、濶_ハ五エ_ル、高_ハ十一エ_ル、四大車輪上ニ架ス、其四輪ハ
 皆金ヲ鍍ス、車ノ前端ニ、半規狀ノ坎凹アリ、熱弩亞人
 一隊ヲ備ヘ、加列兒_ル、レ即_ル盧_ル的_ル、レ古_ルノ聖_ルノ冠ヲ捧ク、四傍
 ニ立テ、手ニ喇叭ヲ操ル者、幾員、車箱ノ四面、上際ニ帝
 名ノ度詞ヲ掲ゲ、老利兒_ル枝ヲ用テ、之ヲ圍ム、此諸物ハ
 皆金ヲ鍍ス、靈柩長_ハ五エ_ル、高_ハ二エ_ル、四周ニ紫色ノ天

鶯絨幔ヲ掛ク、幔上ニ、レN_ノ字、レ那_ノ波_ノ列_ノ翁_ノ、レ蜜_ノ蜂_ノ、及_テビ帝ノ
 兵器ヲ飾ル、車箱上際ニハ、四面ニ金甲ヲ穿タル女人
 之像、各六人ヲ設ク、此像モ亦鍍金大サ大人ノ如シ、上
 二、レ炬_ノ火_ノ十_ノル、レ一_ノ叢_ノハ、レ稍_ノヲ置ク、帝柩ハ、箱内ニ在リ、上ニ
 王杖、帝冠、諸武器ヲ排列ス、此皆那波列翁、當時歐邏巴
 才_ノ鞭_ノ、レシ、帝域ニ君臨セシ寸用ル所ノ寶什ナリ、外擲
 ハ、高_ハ十五エ_ル許、下ヨリ上ニ至テ、黄金、天鶯絨ヲ装ヒ、
 喪車ハ十六ノ馬匹ニ駕ス、每四其首ヲ駢ヘ、每匹身上
 錦繡ヲ覆ヒ、頭上陰部ハ、白鳥毛ヲ粧フ、馬絆ハ金索ヲ
 用ヒ、御者手ニ金纏ヲ執ル、其衣服、帝宮ノ服制ヲ用フ、

鶯絨幔ヲ掛ク、幔上ニ、レN_ノ字、レ那_ノ波_ノ列_ノ翁_ノ、レ蜜_ノ蜂_ノ、及_テビ帝ノ
 兵器ヲ飾ル、車箱上際ニハ、四面ニ金甲ヲ穿タル女人
 之像、各六人ヲ設ク、此像モ亦鍍金大サ大人ノ如シ、上
 二、レ炬_ノ火_ノ十_ノル、レ一_ノ叢_ノハ、レ稍_ノヲ置ク、帝柩ハ、箱内ニ在リ、上ニ
 王杖、帝冠、諸武器ヲ排列ス、此皆那波列翁、當時歐邏巴
 才_ノ鞭_ノ、レシ、帝域ニ君臨セシ寸用ル所ノ寶什ナリ、外擲
 ハ、高_ハ十五エ_ル許、下ヨリ上ニ至テ、黄金、天鶯絨ヲ装ヒ、
 喪車ハ十六ノ馬匹ニ駕ス、每四其首ヲ駢ヘ、每匹身上
 錦繡ヲ覆ヒ、頭上陰部ハ、白鳥毛ヲ粧フ、馬絆ハ金索ヲ
 用ヒ、御者手ニ金纏ヲ執ル、其衣服、帝宮ノ服制ヲ用フ、

喪車ノ四面ハ、靈柩ヲ船ニテ運致セル船隊五百名之ヲ警衛ス、ヨレニアルレノ布綸帥之ニ將タリ、其後ニ當時帝ニ給仕セル士卒千四五百人、帝國當時ノ陣装ヲ為テ隨フ、喪車既ニ本院内ニ入レバ、上團兵隊其餘諸隊ノ先導スル者、皆劍銃ヲ撃テ、フレセニテ、ルノ禮ヲ行フ、銃劍ヲ使用スル人、尊貴ヲ見レバ、此禮ヲ行フ、院内ノ兵皆劍ヲ肩ニテ跪拜ス、俾斯玻、諷經畢レバ、土團ノ親衛リ、一ニ隊兵通ゾ三十六員、靈柩ヲ擔テ、殿堂ニ進ム、那波列翁ノ佩劍ハ、天鷲絨枕上ニ載セ、ゼ子ヲトル、官アタリニ名人_名之ヲ捧テ

マールニカルク、官ツウルト名人_名ニ交ス、ツウルト之ヲ佛蘭西王ニ上ル、王自ラゼ子ヲールベルトラントニ命メ、靈柩上ニ措カシメ、又ゼ子ヲールゴウルゴウトヲ召メ、帝帽ヲ柩上ニ措シムル、前儀ノ如シ、此儀了テ、擔夫又靈柩ヲ荷ヒ、徐歩ノ穹窿正殿ニ入ル、殿高十五エル許、盡ク黄金及ビ、各色天鷲絨ニ、紫鑲セル物ヲ用テ莊飾ス、官政各部君長皆椅子ニ坐ス、椅子ハ其飾各華靡ヲ極ム、帝墓ハ兩翅ヲ張タル、鑲金靈鷲ヲ以テ之ヲ蓋ス、鷲大ニエル許、穹窿殿内ハ、燈燭ヲ一行ニ列シ、蠟燭青焰ヲ吐テ四壁ニ照映ス、別ニ六十

箇銀燈ヲ掲グ尊嚴光明ヲ輝カス殿内ノ柱ゴトニ搶
掠セル兵器寶什ヲ排シ諸功臣ノ功業記ヲ附ク盛儀
已ニ全ク畢テ王駕ハ八乘ヲ備ヘ無數ノ步騎前後
擁入王宮ニ返ル

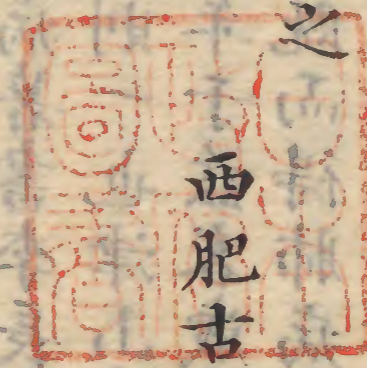
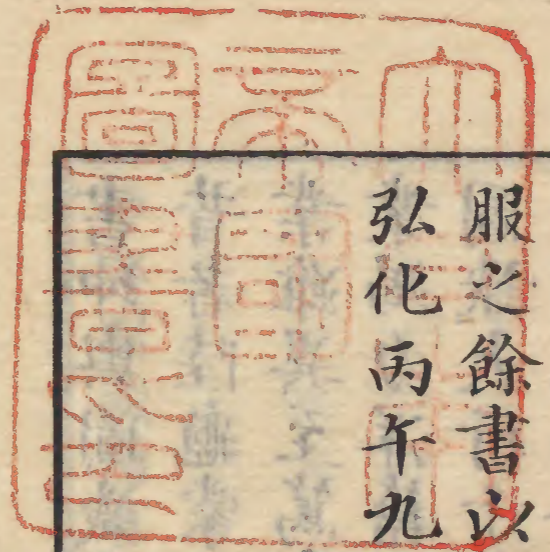
坤輿圖識補卷四 大尾

書坤輿圖識補後

昔者陸龜蒙卧病著書李長吉苦吟吐血其所
業雖異至篤志則一也津山箕作玉海承乃父
業竭力洋籍有年于茲客歲著輿地全圖坤輿
圖識大行于世既而得肺病患咯血然而汲汲
著書毫不介意有時暴發咯血汚其稿紙猶隱
几握管不止雖乃父戒之故舊諫之特為首肯
而已書成題曰坤輿圖識補嗚呼玉海何人言
其勞則譯左行說字內言其病則傷肺腸吐鮮
血若夫陸李二子置而不論也方今外夷伺隙

其書... 卷之...

四邊有警我西肥最當要衝而淺陋如余束縛
一官視不及睫心竊慙焉玉海仕無海之藩居
無患之職而其焦思深慮如此此書也洵余輩
之鍼砭而亦天下之藥石也抑玉海鑿也知鑿
國而不知醫身無愧古所謂止鑿鑿亦大哉嗟
服之餘書以與之
弘化丙午九月



江都 渡邊毅書

美作 箕作省吾著

弘化四年丁未十一月

岡田屋嘉 七

山城屋佐兵衛

須原屋茂兵衛

和泉屋善兵衛

須原屋伊 八 發行

江都書賈

